
七色戦隊アチスタ7!!

白水

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

七色戦隊アチスタ7！！

【Nコード】

N8791Z

【作者名】

白水

【あらすじ】

学生7人で、ゆるやかな敵を遊びながら戦う、というめっちゃくちゃなお話です。

キャラクター説明（前書き）

初登校ですこんにちは^^

今回は戦隊ものが書きたいなあと思い、

「七色戦隊アチスタ7！」というものを作ってしまった。
元（アチスタ7たち）は皆友達です

キャラクター説明

アチスタレット

- ・いちおうリーダー。最近観察日記をつけてたりする。
- ・団体行動がほとんどなので、いない時は大きく存在を消す。もしくはヒステリックに悲しまれる。
- ・勉強が大の苦手。問題解こうとしてもワカラナイ。
- ・戦うときはアチスタビームやメダルのなかの『100』と書かれたハンマーが出てきて、そのハンマーで戦う。パンダも出てくる
- ・緊急時（敵が巨大化など）のときはメダルの中のハンマーが巨大化する。アチスタビームの威力がでかくなる。
- ・しかし、アチスタビームはなかなか撃ちたいところに撃てないので、毎回いろんなものを破損。ハンマーは軽くなるので威力が弱くなる。

アチスタオレンジ

・団員。「神」という名所をもつ。最近グリーンを驚かそうとして
いる。

・たまにいないときがある。しかし戦うときはとても大切な役割な
ので、いないと悲惨なことになっている。

・戦うときは、いつも持ち歩いているバイオリンで戦う。バイオリ
ンを奏でる弦は、たまに剣になったりする。

・バイオリンはオレンジ特有なので、ほかの人が使おうとしても、
音は鳴らない。もしくはひどい音が鳴る。

・オレンジがバイオリンを弾くと、音符が形となって出てきて、敵
を集中攻撃する。一つの音符あたり1ヒット。

・たまに音符が出すぎて本人が音符まみれになったりする。

アチスタレモン

・団員。ピンクといると変体発言連発するので周りは引き気味。

・ニヤツと笑うときは、なにかしらおかしいことを言う。

・「イエロー」という言葉は嫌いらしい。

・戦うときは、武器はあまり使わずに戦う。つまりところプリユアと同じ。

時間ループができる。意外とメルヘンチックな攻撃があったりする。

・戦う衣装もまさにプリユア。実はアリスにでてくるような時計を持っている。

・たまにビームのようなものがでてくるのは、たまりきったパワーが時計から出てくるせい。結構敵にあたる。あたると一部分こげる。

アチスタグリーン

・団員。アチスタ7を考えたのはこの人。なにかしたよくジャンプする。

・基本マイペース。なので、ごくまれにどこかに行く。

・歩きたびによくジャンプするので、よく驚かれる。

・すきなものがわさび、シーラカンス、おふだなど、変わった趣味（好み）があるせいで、武器までもがそのまんまになってしまった。

・戦うときはおふだを投げ、敵を自分の性格と同じにする。敵によっては弱くなったり強くなったりする。たまに敵の体をおふだで切るときがある。わさびは乗ったりたいたり。

・わさびはよく折れる。

・頭についているのは実はブーメラン。巨大化する。

・実際のリーダーよりもリーダーっぽいので、レッドやパープルから「グリーンがリーダー!!」と、よくいわれる。

アチスタブルー

・団員。ツッコミやボケなど、多彩な才能をもつ（いろんな意味で）

・グリーンとは話が結構合い、歌うなり変なポーズなり「ヤウー」なり、いろいろ。

・結構な運動神経の持ち主のため、戦うときにいないと悲惨なことになる part 2

・戦うときは、スケボで空中を舞い、ポケットにある手榴弾で攻撃する。

・たまになぜかポケットに、グリーンの武器の一部分が入っている。

・ポケットには無くとも、お菓子はたくさん入っている。

・「戦う」というよりも「遊ぶ」の思考のため、まじめには戦わない。

・ペロペロキャンディーを与えると、数秒で食べきってしまう。あの意味おそろしい子。

・「ヤパー」や「ほあちゃっ」など、不思議な言葉を発する。

アチスタパープル

・団員。病んでいるときがある

- ・グチが多き、悩める少女。人のグチに付き合ってくれたりする。
- ・戦うときはナイフを使う。

・ナイフの種類は豊富。ジャックナイフだったり、包丁だったり、あるときは手術用のメスだったり。

- ・やたらと技がかっこよかったりする。

・刃物を持たせると喜ぶ、というか、無償に笑うので、刃物を持つたときのパープルは近づきにくい。

・刃物をダブルで持たせると本気でヤバイので、ほぼ全員が非難する。

アチスタピンク

- ・団員。レモンと一緒に変体発言をする。かくさない変態。

・最近「わひゃひゃ」「や」もっしやもしや」と言っていることが多い。

- ・超のつくなまけもの。なまけものすぎて役に立たないことが多い。
- ・大体は「がんばれー」と応援している。そのたびに誰かに殴られる。
- ・戦うときはGペンを使う。
- ・しかし本人は、気まぐれ&めんどくさがりやなので、敵がいてもGペンを好き勝手に使う。
- ・妹を寵愛ごほうじしているが、その妹には毎回罵声をあびせられている。だが本人は全く気にしていない

オセロのお話(前書き)

タイトルが思いつかなかつたorz
今回は戦いません。ただ単にオセロで遊んでいるだけです。
次回に敵が出てきます。たぶん

オセロのお話

アチスタ7・・・それは、ごく普通(?)の少女たちが7人あつま
り、町を壊そうとする敵を倒す。

そんな、正義のヒロイン的なものを背負った少女たちのお話。

アチスタ7本部(会議室)

中にはレッド、グリーン、ブルーがいた。

通称、この三人は、ZBN組ズボンといわれている。(変身したときの衣
装がズボンのため。)

パチ・・・パチ・・・

オセロの駒の音。

それ以外の音は聞こえない。

グ「ふっはっはっはっは」

さっきまでの静かさは無かったかのように、室内に絶叫が広がった。

ブ「なにしてくれとんじゃあああああ！！！！！」

グ「私の辞書にルールは無用！！オセロのルールだって簡単に変えてみせる！！！！」

ブ「なんて自分勝手な！！！！」

グ「そーいうわけだから、ブルーの負けね。」

ブ「いやいやいや！どういうわけだか知らないけどさ！！ってか話変わるけどさ！！今思いつきりバキツて 聞こえたよね！！？」

グ「大丈夫。空耳だ。」

ブ「いや空耳じゃないって！！ほらあ！！！！」

ブルーがオセロ台を裏向きにする。

いかにも安っぽいオセロ台は、角のところが思い切りひび割れてることを知らせていた。

ブ「ほらー！！！！」

グ「ほんとだー。ってか手痛いんだけど・・・」

ブ「ん？あ、血出てる・・・さっきあんなことするから悪いんだよー」

グリーンの手が赤色に染まっている。見た目けっこう、グロテスク。

グ「えw今までに無いくらい出血してるよ・・・？wってか痛い」

ブ「うわーこれヤバくない・・・ってちよっ！！！！オセロ台っ！！」

！オセロ台が見たこと無い色になってる！！！！」

オセロ台のごく普通の緑色の色がグリーンの血によって、よく分か

らない色に変色してきている。

これもまたグロテスクな光景だった。

グ「う わ わ わあああっっ！！！！ちょ、絆創膏とか無いのか！！！？ちよつとレッド！！！！レッドー！！！！」

レ「呼んだ？」 ヒョコッ

グ「うわああ割と自然に出てきたよ！？この子！！」

レ「さっきまでここにいたでしょ！？」

グ「いたっけ？（・・・）」

レ「ひどい！！！！」 ポカポカポカポカ・・・

グ「うわわわごめんごめん！！！！それより早くバンソーコー！！！！」

レ「え・・・・・・？・・・うわっ何これ」

グ「見てのとおり血です！！出血！！わかる！？」

レ「わわわわかったちよつとまってて！！！！」

すぐさまレッドは救急箱を探しにその場から飛び出した。

その後、あんがい救急箱は早く見つかり、手当ては簡単な感じで済んだ。

オセロのお話し？（前書き）

やっと敵が出てくる、と思いきや、

探知機で出てきたことをお知らせしているだけです

オセロのお話し？

グ「た・・・助かったあああああ」

グリーンの長いため息がその場の空気を埋める。それに続けてレッド、ブルーが肩の力を抜いた。やはり血を見るとパニック状態になるのか、すべて拭き取り終わったときの落ち着きようは、さっきの騒ぎとは比べものにならないようなものだった。

ブ「びつくりしたー・・・これまでにないくらいビックリしたー・・・」

いまだにブルーは動揺している。それもそのはず、あんなにも大量の血を見たのだから。

レ「・・・・・・・・・・・・・・・・」
グ「・・・・・・・・レッド？どした？」

少し硬直しながらレッドは口を動かした。

レ「・・・・・・・・今ここに

パープルいなくてよかったね・・・・・・・・」

ブ「・・・・・・・・ああ！！ほんとだ！！！！」

グ「！！！！・・・うっわよかったー！！！！マジでよかった！！！！」

3人はまたホツとする。

なぜ？パープルがいなくて良かった”かというと、

パープルは刃物や血、などといった、いわゆる『危ない系』なものが大好きで、それらを見ると、笑いがとまらなくなったり、興奮したり、近づいたらいけないリーダーが立ったりしてもものすごく危険なことになるのだ。

今ここにパープルがいたら、危ないことになっていたに違いなかっただろう。

グ「いやぁ・・・」

再びグリーンが話し始める。

グ「こんなに出血したの、鉛筆が手のひらに刺さった時以来だわー」

W「
ブ「刺さったの!!?」

グ「うんwこっ、グサツと」

グリーンがジエスチャーで話す。

ジエスチャーならグリーンにとってはお手の物だ。

レ「・・・喧嘩でもした?」

グ「うんwあの鉛筆抜いたあとが大変でさー、たちまち手のひらが血の海n」

ブ「やめて!!!やめてええ!!!これ以上はなしたらグロテスク表現にいつちやうよ!!!?」

グ「うっぶす。」

レ「でもこれギリギリアウトじゃない?」

グ「いや、わっかんね」

いつもどおりの会話につながろうとした

そのとたん、

ピリリリリリッピリリリリリリリッ

3人『!!!』

3人のポケットから同時に敵探知機が鳴り出した。

一番にグリーンが取り出して探知機を見る。

この探知機、ただの探知機なんかではなく、

敵の弱点、DNA、その他様々なものを映し出し、

それに付け加えて、携帯のように通話できたりメールできたり、それにインターネットに接続できたり

しかも音（着信音）が各機能ごとに違うので、誰からの信号か、敵が出たかがよくわかるので、

なんとも機能が優れた探知機なのだ。

今のこの音は、敵が出たことを示している。

グ「もー出てきちゃったかあ」

ため息まじりでグリーンがつぶやく。

グ「・・・よしっ

ズボン
ZBN組み、出動!!!」

オセロのお話し？（後書き）

敵は次出させます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8791z/>

七色戦隊アチスタ7!!

2011年12月29日10時51分発行